マシンツール・ワールド
Machine Tool World

No.331
2026年10月
第29巻第7号
（通巻331号）

一般社団法人日本工作機械工業会
〒105-0011 東京都港区芝公園3-5-8
Tel:03-3434-3961 Fax:03-3434-3763
URL https://www.jmtba.or.jp

目次

1. 工作機械統計・産業動向
◆米国工作機械受注統計（8月）……1
◆米国工作機械受注統計（地域別）……2
◆台湾工作機械輸出入統計（2026年7月）……2
◆韓国工作機械主要統計（2026年7月）……3

2. 主要国・地域経済動向
◆米国：PMI 54.5%（9月）……7
◆中国製造業 PMI 50.1%（9月）……8
◆ACMA、2030年までにインド自動車部品産業2,000億米ドル規模に拡大目指す……8
◆海外業界動向：
中国……9
インド……11
◆米国通商政策動向：
中国のAI企業6社に関する共同勧告……14
EUデュアルユース（軍民両用）規制……15
管理対象の技術やソフトウェアのアップロードが輸出管理の対象となる可能性……15
韓国の半導体製造装置サプライヤー……16
輸出許可申請の処理……17

3. 工作機械関連企業動向
◆CHIRONグループ、AMB 2026で好調な結果を発表……18
◆Mikron Automation、IEC 62443-4-1認証を取得…19
◆ティッセンクルップ・オートモーティブ・テクノロジーとイノバンス・オートモーティブ、ステア・バイ・ワイヤ分野で戦略的パートナーシップを締結……19
◆ティッセンクルップ・オートモーティブ・テクノロジー、インド・プネに新たなエンジニアリングセンターを開設……20

4. 展示会情報
◆米国「IMTS 2026」で確認した製造オートメーションの未来……21

5. 日工会外需状況（9月）……24

お知らせ
IMTEX2027視察団のご案内……26
IMTEX 2027プレスコンフェレンス＆インド進出セミナー……27

1. 工作機械統計・産業動向

◆米国工作機械受注統計（8月）

AMT（米国製造技術協会）が発表する米国製造技術受注レポートによると、2026年8月の金属加工機械の新規受注額は合計7億3,290万ドルに達した。シカゴで開催される国際製造技術展（IMTS）の開幕を1ヶ月後に控え、製造技術関連の受注額は月間ベースで過去3番目の高水準を記録した。2026年8月の受注額は、前月（2026年7月）比で21.0%、前年同月（2025年8月）比で36.3%の増加となった。2026年の年初来の受注総額は47億6,000万ドルに上り、これは2025年の最初の8ヶ月間と比較して36.9%の増加にあたる。

米国製造技術関連の受注における現在の好調な動きは、受注額が5億ドルを超える月が6ヶ月連続で続いているという点にも表れており、これは過去最長の記録である。2024年9月に現在の拡大局面が始まって以来、受注額の伸び率は、受注台数の伸び率の約3倍の速さで推移している。高額な機械を購入する傾向にある航空宇宙分野は、今回の好調な動きが始まる前から、総受注額に占める割合を拡大させてきた。全産業において、自動化機能を備えた新規機械の割合が増加し続けていることも、受注台数の伸びを上回るペースで受注額が増加する傾向をさらに強めている。

（USMTOレポート　2026年10月12日付）

米国工作機械受注統計

（金額単位：千ドル）

年　月	切削型受注		成形型受注	
	台数	金額	台数	金額
2025年 8月	1,842	533,174	18	4,512
9月	1,811	486,861	28	12,428
10月	2,009	550,410	18	4,961
11月	1,642	432,759	20	3,729
12月	2,577	814,126	20	7,938
2026年 1月	1,459	431,555	18	11,280
2月	1,686	479,450	21	5,833
3月	2,129	658,601	23	8,873
4月	1,848	581,990	20	9,134
5月	1,883	566,912	17	8,810
6月	2,028	646,695	24	9,034
7月	1,955	592,985	44	12,558
8月	2,373	721,742	27	11,202
平均	1,942	576,712	23	8,484

◆米国工作機械受注統計（地域別）

（金額単位：百万ドル）

地域別	2026年8月(P)	2026年7月(R)	前月比(%)	前年同月	前年同月比(%)	2026年累計(P)	2025年累計(R)	前年同期比(%)
全米	732.9	605.5	21.0	537.7	36.3	4,756.7	3,475.1	36.9
北東部	114.1	81.3	40.4	84.6	34.9	749.8	526.6	42.4
南東部	89.7	100.3	–10.6	81.1	10.6	651.3	463.9	40.4
北中東部	122.8	121.3	1.2	91.5	34.1	879.8	780.9	12.7
北中西部	113.7	106.5	6.8	97.2	17.0	773.2	575.7	34.3
南中部	47.8	67.9	–29.6	64.3	–25.6	465.1	378.4	22.9
西部	244.8	128.2	91.0	119.0	105.8	1,237.5	749.6	65.1

P：暫定値　R：改定値
データは成型形含む

◆台湾工作機械輸出入統計（2026年7月）

台湾工作機械輸出入統計（2026年1～7月）

（単位：千USドル）

機種名	輸出			輸入		
	2025.1-7	2026.1-7	前年比(%)	2025.1-7	2026.1-7	前年比(%)
放電加工機・レーザ加工機	89,877	115,606	28.6	153,652	166,154	8.1
マシニングセンタ	360,663	322,536	–10.6	43,351	58,422	34.8
旋盤	251,626	240,116	–4.6	29,876	30,482	2.0
ボール盤・フライス盤・中ぐり盤	84,947	79,082	–6.9	6,103	6,288	3.0
研削盤	124,072	131,768	6.2	21,835	32,893	50.6
歯切り盤・歯車機械	55,713	55,723	0.0	19,209	12,243	–36.3
切削型合計	966,898	944,831	–2.3	274,026	306,482	11.8

出所：TAMI

台湾工作機械国別輸出入統計(2026年1-7月)

(金額単位：千USドル)

輸出						輸入					
順位	国別	2025.1-7	2026.1-7	割合(%)	前年比(%)	順位	国別	2025.1-7	2026.1-7	割合(%)	前年比(%)
1	中国	311,034	316,659	27.4	1.8	1	日本	148,217	158,026	43.3	6.6
2	米国	20,142	186,249	16.1	–9.7	2	中国	67,316	93,649	25.7	39.1
3	インド	79,290	93,235	8.1	17.6	3	韓国	14,155	23,877	6.5	68.7
4	ベトナム	52,562	77,119	6.7	46.7	4	ドイツ	31,303	22,739	6.2	–27.4
5	タイ	54,459	58,610	5.1	7.6	5	スイス	23,620	17,359	4.8	–26.5
6	トルコ	92,823	50,963	4.4	–45.1	6	シンガポール	2,940	14,734	4.0	401.2
7	マレーシア	18,913	29,705	2.6	57.1	7	タイ	7,764	12,168	3.3	56.7
8	ドイツ	20,272	29,435	2.5	45.2	8	米国	9,533	3,876	1.1	–59.3
9	日本	30,735	23,320	2.0	–24.1	9	イスラエル	5,048	3,671	1.0	–27.3
10	オランダ	27,484	23,146	2.0	–15.8	10	台湾	3,807	3,332	0.9	–12.5
11	イタリア	20,633	20,164	1.7	–2.3		その他	13,918	11,623	3.2	–16.5
12	韓国	18,870	19,332	1.7	2.4						
13	メキシコ	16,001	18,031	1.6	12.7						
14	英国	20,217	16,348	1.4	–19.1						
15	インドネシア	15,616	15,689	1.4	0.5						
16	オーストラリア	12,906	14,261	1.2	10.5						
17	ベルギー	11,993	14,074	1.2	17.4						
18	ブラジル	20,176	13,543	1.2	–32.9						
19	カナダ	11,227	13,370	1.2	19.1						
20	フランス	10,294	10,710	0.9	4.0						
21	スペイン	9,326	10,216	0.9	9.5						
22	香港	3,945	9,014	0.8	128.5						
23	ポーランド	11,135	8,447	0.7	–24.1						
24	イスラエル	3,253	7,306	0.6	124.6						
25	南アフリカ	7,097	7,250	0.6	2.2						
26	シンガポール	6,209	5,420	0.5	–12.7						
27	アラブ首長国	4,721	4,263	0.4	–9.7						
28	ポルトガル	3,675	3,999	0.3	8.8						
29	フィリピン	3,818	3,932	0.3	3.0						
30	チェコ	4,654	3,598	0.3	–22.7						
	その他	63,994	48,830	4.2	–23.7						
	合計	1,173,474	1,156,238	100.0	–1.5		合計	327,621	365,054	100.0	11.4

出所：海関進出口統計月報

◆韓国工作機械主要統計(2026年7月)

韓国工作機械受注(2026年7月)

○業種別受注(2026.7)

(単位：百万ウォン)

需要業種	2026.6	2026.7	前月比(%)	2025.1–7	2026.1–7	前年同期比(%)
鉄鋼・非鉄金属	3,724	947	–74.6	24,424	14,427	–40.9
金属製品	815	2,201	170.1	1,455	4,762	227.3
一般機械	47,037	30,873	–34.4	173,385	205,894	18.7
電気機械	23,260	18,408	–20.9	59,933	99,710	66.4
自動車	28,855	62,461	116.5	248,076	259,106	4.4
造船・輸送用機械	8,839	6,958	–21.3	36,994	40,948	10.7
精密機械	4,725	6,328	33.9	44,520	27,826	–37.5
その他製造業	9,752	6,881	–29.4	37,027	46,362	25.2
官公需・学校	353	289	–18.1	3,927	1,036	–73.6
商社・代理店	10,235	10,452	2.1	43,167	92,442	114.1
その他	0	0	–	0	0	–
内需合計	137,595	145,798	6.0	672,908	792,513	17.8
外需	246,754	222,918	–9.7	1,152,847	1,444,508	25.3
総合計	384,349	368,716	–4.1	1,825,755	2,237,021	22.5

出所：韓国工作機械産業協会

○機種別受注(2026.7)　（単位：百万ウォン）

機種	2026.6	2026.7	前月比(%)	2025.1-7	2026.1-7	前年同期比(%)
NC小合計	378,091	360,689	–4.6	1,780,303	2,199,903	23.6
NC旋盤	194,085	133,068	–31.4	874,705	1,045,794	19.6
マシニングセンタ	139,671	134,824	–3.5	648,078	829,236	28.0
NCフライス盤	4,250	200	–95.3	2,569	5,213	102.9
NC専用機	17,788	74,910	321.1	143,903	196,112	36.3
NC中ぐり盤	13,822	7,422	–46.3	49,421	70,284	42.2
NCその他の工作機械	6,437	6,096	–5.3	42,652	38,330	–10.1
非NC小合計	3,805	5,407	42.1	32,369	23,880	–26.2
旋盤	800	1,621	102.6	12,474	8,849	–29.1
フライス盤	1,762	2,790	58.3	10,745	9,081	–15.5
ボール盤	0	43	–	313	81	–74.1
研削盤	1,243	953	–23.3	8,767	5,353	–38.9
専用機	0	0	–	0	441	–
その他の工作機械	0	0	–	0	0	–
金属切削型	381,896	366,096	–4.1	1,812,672	2,223,783	22.7
金属成形型	2,453	2,620	6.8	13,083	13,238	1.2
総合計	384,349	368,716	–4.1	1,825,755	2,237,021	22.5

出所：韓国工作機械産業協会

韓国工作機械生産＆出荷統計（2026年7月）

○生産(2026年7月)　（単位：百万ウォン）

機種別	2026.6	2026.7	前月比(%)	2025.1-7	2026.1-7	前年同期比(%)
NC小合計	243,846	251,632	3.2	1,233,186	1,369,717	11.1
NC旋盤	114,562	118,928	3.8	581,446	623,274	7.2
マシニングセンタ	94,041	99,078	5.4	422,446	503,170	19.1
NCフライス盤	240	0	–	1,636	924	–43.5
NC専用機	20,415	21,238	4.0	150,995	154,830	2.5
NC中ぐり盤	4,176	3,368	–19.3	23,406	24,674	5.4
NCその他	8,836	6,821	–22.8	35,433	51,391	45.0
非NC小合計	4,015	2,380	–40.7	20,418	12,884	–36.9
旋盤	97	0	–	1,994	97	–95.1
フライス盤	2,162	1,671	–22.7	7,549	7,504	–0.6
ボール盤	0	0	–	2,167	0	–
研削盤	806	597	–25.9	5,276	3,608	–31.6
専用機	950	112	–88.2	3,362	1,600	–52.4
その他	0	0	–	0	0	–
金属切削型合計	247,861	254,012	2.5	1,253,604	1,382,601	10.3
金属成形型合計	14,923	14,947	0.2	110,005	106,143	–3.5
総合計	262,784	268,959	2.3	1,363,609	1,488,744	9.2

出所：韓国工作機械産業協会

○出荷(2026.7)　（単位：百万ウォン）

機種別	2026.6	2026.7	前月比(%)	2025.1-7	2026.1-7	前年同期比(%)
NC小合計	327,104	274,448	–16.1	1,623,690	1,775,844	9.4
NC旋盤	165,196	130,599	–20.9	800,252	874,075	9.2
マシニングセンタ	124,541	107,968	–13.3	565,263	659,549	16.7
NCフライス盤	240	0	–	1,636	950	–41.9
NC専用機	20,415	21,238	4.0	170,159	154,830	–9.0
NC中ぐり盤	7,242	8,078	11.5	33,169	38,271	15.4
NCその他	7,894	4,366	–44.7	35,387	36,715	3.8
非NC小合計	6,137	4,365	–28.9	34,520	22,130	–35.9
旋盤	2,158	1,877	–13.0	14,427	8,646	–40.1
フライス盤	2,223	1,738	–21.8	7,866	7,789	–1.0
ボール盤	0	19	–	2,580	19	–99.3
研削盤	806	619	–23.2	6,215	4,001	–35.6
専用機	950	112	–88.2	3,362	1,600	–52.4
その他	0	0	–	0	0	–
金属切削型合計	333,241	278,813	–16.3	1,658,210	1,797,974	8.4
金属成形型合計	1,340	1,448	8.1	11,229	7,356	–34.5
総合計	334,581	280,261	–16.2	1,669,439	1,805,330	81.0

出所：韓国工作機械産業協会

韓国工作機械輸出統計（2026年7月）

○機種別輸出(2026.7)　（単位：千USドル）

機種別	2026.6	2026.7	前月比(%)	2025.1-7	2026.1-7	前年同期比(%)
N C 小 合 計	154,516	133,797	–13.4	940,078	968,222	3.0
NC旋盤	82,739	62,555	–24.4	471,529	457,562	–3.0
マシニングセンタ	40,330	40,208	–0.3	272,133	29,358	7.9
NCフライス盤	1,667	463	–72.2	10,094	6,482	–35.8
NC専用機	64	1,154	1,703.1	11,799	1,218	–89.7
NC中ぐり盤	3,691	4,818	30.5	19,956	20,224	1.3
レーザ加工機	19,204	17,894	–6.8	116,462	142,048	22.0
NCその他	2,861	2,309	–19.3	20,068	20,726	3.3
非 N C 小 合 計	6,221	11,483	84.6	56,520	50,967	–9.8
旋盤	334	462	38.5	4,827	3,472	–28.1
フライス盤	482	790	63.9	5,301	5,061	–4.5
ボール盤	31	2,424	7,719.4	4,073	3,844	–5.6
研削盤	676	864	27.7	6,510	6,914	6.2
専用機	2	41	1,950.0	342	156	–54.4
その他	3,354	5,231	55.9	21,886	23,150	5.8
金 属 切 削 型 合 計	160,737	145,280	–9.6	996,598	1,019,189	2.3
金 属 成 形 型 合 計	22,785	43,941	92.9	295,276	258,320	–12.5
総 合 計	183,521	189,221	3.1	1,291,874	1,277,509	–1.1

出所：韓国通関局

○仕向け国別輸出(2026.1-7)　（単位：千USドル）

機種別	アジア	中国	インド	アメリカ	欧州	ドイツ	トルコ
NC小合計	380,063	122,615	104,230	232,653	283,036	104,783	83,413
NC旋盤	93,586	32,984	34,697	136,736	193,186	76,250	60,358
マシニングセンタ	119,106	36,558	55,007	67,931	79,132	25,863	21,597
NCフライス盤	3,904	305	1,550	1,030	763	52	0
NC専用機	1,040	0	64	178	0	0	0
NC中ぐり盤	11,943	7,804	2,997	3,455	0	0	0
レーザ加工機	123,084	31,154	4,710	10,759	5,111	114	130
NCその他	7,202	1,110	1,580	10,098	2,363	1,725	533
非NC小合計	34,970	10,601	10,948	9,960	2,767	1,210	411
旋盤	2,733	210	1,287	336	187	69	118
フライス盤	3,306	584	982	946	363	166	11
ボール盤	3,334	156	1,135	335	33	0	0
研削盤	5,906	1,901	2,491	575	129	82	0
専用機	4	0	0	0	111	111	0
その他	13,684	7,014	3,348	6,701	1,158	288	281
金 属 切 削 型 合 計	415,033	133,216	115,178	242,613	285,803	105,993	83,824
金 属 成 形 型 合 計	145,172	7,998	94,520	72,540	24,872	5,390	4,870
総 合 計	560,204	141,214	209,698	315,154	310,676	111,383	88,694

出所：韓国通関局

韓国工作機械輸入統計（2026年7月）

○機種別輸入(2026.7)　（単位：千USドル）

機 種 別	2026.6	2026.7	前月比(%)	2025.1-7	2026.1-7	前年同期比(%)
N C 小 合 計	51,821	47,376	–8.6	366,875	342,373	–6.7
NC旋盤	5,659	5,395	–4.7	34,858	28,966	–16.9
マシニングセンタ	11,311	12,974	14.7	86,487	87,015	0.6
NCフライス盤	184	668	263.9	8,903	25,634	187.9
NC専用機	0	0	–	2,888	2,333	–19.2
NC中ぐり盤	667	645	–3.3	6,413	5,754	–10.3
レーザ加工機	19,068	16,001	–16.1	133,098	116,668	–12.3
NCその他	2,244	927	–58.7	5,300	9,212	73.8
非 N C 小 合 計	8,141	6,396	–21.4	59,187	43,745	–26.1
旋盤	598	908	51.8	3,811	3,729	–2.2
フライス盤	69	67	–3.2	4,032	1,975	–51.0
ボール盤	254	337	32.7	2,336	1,956	–16.3
研削盤	1,243	1,326	6.7	14,106	6,784	–51.9
専用機	13	11	–16.5	254	32	–87.4
その他	3,237	1,878	–42.0	19,392	15,708	–19.0
金 属 切 削 型 合 計	59,962	53,772	–10.3	426,062	386,118	–9.4
金 属 成 形 型 合 計	9,375	15,445	64.7	90,876	76,778	–15.5
総 合 計	69,337	69,217	–0.2	516,938	462,896	–10.5

出所：韓国通関局

○輸入国別(2026.1-7)　　（単位：千USドル）

機種別	アジア	日本	台湾	米国	欧州	ドイツ	イタリア
N C 小 合 計	255,058	109,649	12,832	3,433	80,324	35,575	3,446
NC旋盤	27,363	11,835	906	47	1,556	166	0
マシニングセンタ	69,787	53,515	7,460	806	16,419	13,675	1,058
NCフライス盤	2,918	459	333	10	22,707	0	0
NC専用機	925	707	0	8	1,400	1,400	0
NC中ぐり盤	3,631	2,622	0	0	2,122	10	2,112
レーザ加工機	105,351	25,377	146	1,378	9,819	6,955	259
NCその他	3,918	1,606	273	1,070	4,215	2,618	17
非 N C 小 合 計	30,412	10,898	2,925	2,166	11,116	5,449	318
旋盤	3,617	1,450	616	2	109	45	0
フライス盤	471	225	0	1,080	423	311	13
ボール盤	1,825	435	121	6	84	47	0
研削盤	6,002	2,680	967	63	716	21	1
専用機	11	0	0	7	14	0	14
その他	9,898	3,610	150	295	5,509	3,762	36
金 属 切 削 型	285,470	120,547	15,757	5,599	91,440	41,024	3,764
金 属 成 形 型	51,195	17,692	2,401	1,947	23,443	3,669	9,778
総 合 計	336,666	138,240	18,159	7,546	114,883	44,692	13,541

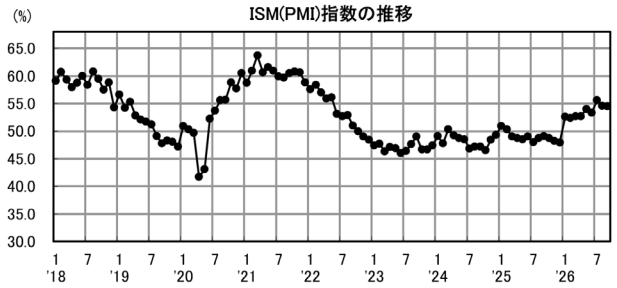
出所：韓国通関局

2. 主要国・地域経済動向

◆米国：PMI 54.5%（9 月）

ISM®（米国供給管理協会）の最新の「ISM®製造業PMI®（購買担当者景気指数）レポート」によると、9月の製造業における経済活動は9ヶ月連続で拡大した。

9月の製造業PMI®は54.5%を記録し、8月の54.6%から0.1ポイント低下した。経済全体は23ヶ月連続で拡大を続けている（製造業PMI®が一定期間47.5%を上回る水準で推移することは、一般的に経済全体の拡大を示唆する）。新規受注指数は、4ヶ月連続の縮小を経て9ヶ月連続で拡大し、8月の53.7%から1.6ポイント上昇して55.3%を記録した。9月の生産指数（56.7%）は、8月に記録された58.3%を1.6ポイント下回った。価格指数は拡大（または『上昇』）圏内にとどまり、8月の71.1%から6.8ポイントという大幅な上昇となる77.9%を記録した。受注残指数は56.4%を記録し、8月の51.8%から4.6ポイント上昇した。雇用指数は52.7%となり、8月の51.2%から1.5ポイント上昇した。



9月、米国の製造業活動は引き続き拡大圏内にあった。PMI®を構成する5つのサブ指数のうち、前月より伸びが加速したのは『新規受注』と『雇用』の2つだけであった。9月のコメントの内訳は、前向きなものが40%、否定的なものが60%で、その比率は1対1.6となった。否定的なコメントの内容としては、価格変動（46%）、関税（34%）、イランをめぐる紛争（30%）、リードタイムの長期化（21%）が挙げられ、多くのコメントで複数の要因が指摘されていた。

9月に成長を報告した12の製造業種は、順に以下の通りである：電気機器・家電・部品、非金属鉱物製品、一次金属、プラスチック・ゴム製品、コンピュータ・電子製品、金属加工製品

ISMが発表した9月の主要個別指数の前月比変動傾向は以下の通り。

項　目	2026年9月指数(%)	2026年8月指数(%)	備　考
ISM指数(PMI)	54.5	54.6	前月比0.1ポイント減。PMIが50%を上回ると製造業の拡大を示唆。
新規受注	55.3	53.7	前月比1.6ポイント増。拡大の基準は51.9である。10業種が増加を報告した。
生産	56.7	58.3	前月1.6ポイント減。拡大の基準は、52である。10業種が増加を報告。
雇用	52.7	51.2	前月比1.5ポイント増。8業種が増加を報告した。
入荷遅延	59.0	59.3	前月比0.3ポイント減。長期化の基準は、50以上。18業種中12業種が長期化を報告した。
在庫	48.6	50.6	前月比2.0ポイント減。拡大の基準44.5ポイントを上回った。9業種が在庫増を報告した。
顧客在庫	41.6	42.8	前月比1.2ポイント減。2業種が増加を報告した。
仕入れ価格	77.9	71.1	前月比6.8ポイント増。16業種が増加を報告した。
受注残	56.4	51.8	前月比4.6ポイント増。10業種が増加を報告した。
輸出受注	50.9	53.2	前月比2.3ポイント減。4業種が増加を報告した。
原材料輸入	51.0	52.5	前月比1.5ポイント減。4業種が増加を報告した。

※データは季節修正値

（ISM Manufacturing Report on Business　2026年10月1日付）

◆中国製造業　PMI 50.1%（9 月）

9月の中国製造業購買担当者景気指数（PMI）は50.1%となり、 前月から0.3ポイント上昇して拡大圏に入った。

企業規模別に見ると、 大企業のPMIは50.6%で前月から横ばいとなり、 基準値を上回った。 中堅・中小企業のPMIはそれぞれ49.7%と48.9%で、 前月から0.3ポイントおよび1.0ポイント上昇したが、 いずれも基準値を下回った。

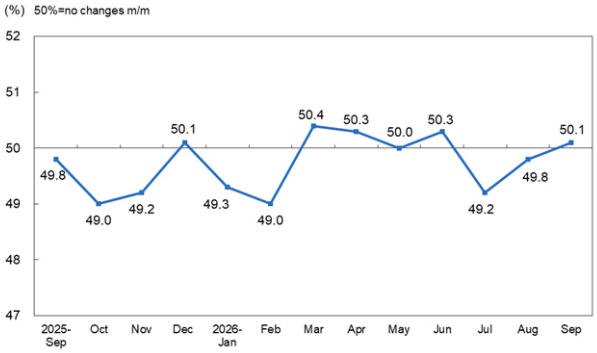
製造業PMIを構成する5つの指数のうち、 生産指数、 新規受注指数、 およびサプライヤー配送時間指数がいずれも基準値を上回った。 一方、 原材料在庫指数と雇用指数はいずれも基準値を下回った。

生産指数は51.7%で、 前月から1.3ポイント上昇し、製造業における生産活動の拡大が加速していることを示した。

新規受注指数は50.5%で、 前月から0.1ポイント低下した。 同指数は基準値を上回っており、 製造業における市場需要の改善が続いていることを示した。

原材料在庫指数は48.2%で、 前月から0.1ポイント上昇し、 製造業における主要原材料在庫の減少幅がわずかに縮小したことを示した。

Figure 1 Manufacturing PMI (Seasonally Adjusted)



雇用指数は48.4%で、 前月から0.3ポイント低下し、 製造業における雇用情勢が悪化したことを示した。

サプライヤー配送時間指数は50.1%で、 前月から横ばいとなった。 同指数は基準値を上回っており、 製造業における原材料サプライヤーの配送時間が引き続き短縮していることを示した。

（Bureau of Statistics of China　2026年10月1日付）

◆ ACMA、2030 年までにインド自動車部品産業 2,000 億米ドル規模に拡大目指す

インド・モビリティ財団傘下のインド自動車部品製造業者協会（ACMA）は、第66回年次総会を開催した。「レジリエンスを超えて」をテーマに、主要政策立案者、著名な海外ゲスト、そしてオピニオンリーダーが一堂に会し、グローバルサプライネットワークにおけるインドの地位向上に向けた戦略を策定した。

2030年までに2,000億米ドルという画期的な市場規模を目指すインドの自動車部品業界は、現状維持のレジリエンスを超え、積極的なグローバル展開へと舵を切っている。力強い成長ぶりを示すインドの自動車部品業界は、2026年度の売上高が7兆6,000億ルピー（859億米ドル）に達し、前年比12.7%増を記録した。5年間で市場規模を倍増させた同業界は、レジリエンスを超え、より強固なグローバルプレゼンスを確立しようとしている。

セッション中に発表されたACMA-BCGレポート「Beyond Resilience」によると、大企業、中堅企業、中小企業を問わず、業界リーダーの約90%が「適切なタイミングで適切な場所にいる」と回答しており、業界の成長見通しと将来の機会に対する強い楽観論が反映されている。インドは、過去最高の240億米ドルの輸出額とOEM向け供給量の16.3%増を背景に、世界的に競争力のある信頼できる自動車部品調達拠点としての地位を強化している。グローバルサプライチェーンが戦略的な転換期を迎える中、国内の自動車部品産業は、イノベーション、品質、そして規模の優位性を背景に、製造と調達の拠点として注目を集めている。

主賓として特別講演を行ったインド政府重工業・鉄鋼大臣のH・D・クマラスワミ氏は、政府が引き続き業界を支援していくことを表明した。彼は、「『レジリエンスを超えて』というテーマは、インド産業を導くべき野心を的確に表している。自動車および自動車部品産業は、この道のりにおいて中心的な役割を担っていく。過去1年間、ナレンドラ・モディ首相の卓越したリーダーシップの下、インド政府は政策意図を測定可能な成果へと転換することに注力してきた。自動車および自動車部品向けの生産連動型インセンティブ(PLI)制度は、有望な成果を上げている。これらの制度は、投資、国内付加価値の向上、先端技術製造、そしてクリーンモビリティへの移行を支援している。」と述べた。

このセッションでは、インド自動車工業会(SIAM)会長兼タタ・モーターズ乗用車・タタ乗用電気自動車部門マネージングディレクターのシャイレシュ・チャンドラ氏、インド産業連盟(CII)会長兼タタ・ケミカルズ・マネージングディレクター兼CEOのR・ムクンダン氏、マルチ・スズキ・インディア・マネージングディレクター兼CEOの竹内久氏といった業界関係者が基調講演を行い、自動車バリューチェーンを形成する機会と変革について語った。

ACMAは、業界の次の成長段階はインダストリー 5.0によって推進されると述べた。AI、自動化、ロボット工学、IoT、そして人間の専門知識を結集し、より協調的で俊敏性、回復力、そして持続可能性に優れた製造エコシステムを構築する。AI、ロボット工学、自動化、デジタル製造におけるスキルアップは、エネルギー効率の高い操業、循環型製造、責任ある生産と並んで、インドがグローバルな製造拠点としての地位を維持するために不可欠であると強調された。これらは、グローバル競争力を持ち、将来を見据えた自動車ビジネスにとって、もはや選択肢ではなく必須条件となりつつある。ACMAはまた、業界、政府、そしてテクノロジーパートナー間のより緊密な連携の必要性を改めて強調し、業界全体におけるイノベーション、技術導入、そしてスキル開発の加速を図る必要性を訴えた。

(Modern Manufacturing India　2026年10月)

◆海外業界動向：中国

中国は1953年以来、一連の五カ年計画を通じて経済計画を世界に発表してきた。現在、2026年から2030年までの第15次五カ年計画である「中国国家経済社会発展計画」が正式に発表された。製造業に関しては、全体的なテーマとして、適正な製造水準を維持し、インテリジェンス、グリーン化、統合の方向性を堅持し、先進製造業を基盤とする現代的な産業システムを構築し、新たな生産力を開発することを目指している。本計画の目標は以下のとおり。

- 2030年まで製造業のGDPに占める割合を25%以上に維持する
- ハイテク製造業の付加価値生産量を年率8%以上増加させる
- 工業生産における再生可能エネルギーの利用率を総消費量の30%に引き上げる
- 主要新興産業における研究開発投資を20%増加させる

主な焦点は、産業チェーンの自立化、伝統産業の高度化、新興産業の強化、そして将来産業の計画策定にある。主要分野におけるセクター別の定量的目標を設定することで、伝統産業、新興産業、将来産業における進捗状況のベンチマークと比較が可能になる。本計画では、製造業を伝統産業、新興基幹産業、将来産業の3つの主要なタイプに分類している。

1. 伝統産業

- 鉄鋼、繊維、化学、自動車、機械などの成熟した製造業
- 計画目標：産業構造の調整と、時代遅れで非効率な生産能力の段階的廃止に5,000億ドルを投じる。省エネルギー・低炭素化、デジタルトランスフォーメーション、品質向上。

2. 新興基幹産業

- 半導体製造・装置、先端材料、ハイエンド機器(精密工作機械・計測機器、民間航空宇宙、ハイエンド医療機器、風力・太陽光発電向け新エネルギー機器、エネルギー貯蔵、産業用・ヒューマノイドロボット、ドローンやeVTOL（電動垂直離着陸機)などの低高度経済機器など、製造業の変革と高度化を牽引する急成長分野。
- 計画目標：これらの産業の振興に7,000億ドルを投じる。

3. 未来産業

- 大型産業モデル、デジタルツイン、合成生物学、量子情報技術、6G通信機器、先端レーザー・ナノメートル技術、最先端エネルギー貯蔵技術など、技術革新の中核を成し、大きな成長可能性を秘めた最先端分野。
- 計画目標：急速な開発と商業化を支援するために2,500億ドルを投じる。

この計画では、中国製造業の高度化に向けた3つの主要戦略が示されている。

1．イノベーション主導型の成長を促進し、主要技術におけるボトルネックを解消する。

2．デジタル技術の導入を加速し、スマート製造の発展を支援するとともに、AI、ビッグデータ、5Gなどの先端情報技術の製造業への統合を促進する。

3．グリーン化と低炭素化への移行を推進する。これには、グリーン製造の推進、資源リサイクルの促進、持続可能な開発の支援が含まれ、新エネルギー車や風力、原子力、太陽光発電などの非化石エネルギー源への継続的な注力も含まれる。

政策措置

これらの目標を推進するための政策には、技術アップグレードやエネルギー効率改善への補助金、デジタル変革やグリーンプロジェクトに投資する企業への税制優遇措置、ハイテク機器、インテリジェント製造ソリューション、再生可能エネルギーなど、主要セクターへの研究開発資金の提供などが含まれる。また、企業が設備をアップグレードしたり、新製品を開発したりするための特別基金や低利融資も用意されている。政府の調達政策は、革新的で環境に優しく、ハイテクな製品を優先的に調達するために活用されており、それによって先進的なソリューションに対する市場需要が強化されている。

今後3年間で、総投資額は1兆6,000億ドルに達すると見込まれており、製造業全体に幅広い機会が提供される。セクター別の投資内訳は、政府の優先事項を示しており、アナリストが製造業における主要な成長分野を特定するのに役立つ。最近発表されたプロジェクトと投資ニュースの一部を以下に示す。

- 蘇州翔楼新材料有限公司：ヒューマノイドロボット製造プロジェクト向けに、CNC加工装置、測定・検査装置、および補助機器を購入するため、8,500万ドルを投資。

- 南京発展先進製造有限公司：産業用ガスタービン機械向けの精密部品コア製品の製造を目的としたプロジェクト向けに、生産ラインの設置、CNC加工装置および検査装置の購入のため、9,100万ドルを投資。
- 湖北凱盛新材料科技(Hubei Kaisheng New Materials Sci & Tech Co.)：新工場建設プロジェクトの一環として、ラッピング(研磨)、ポリッシング(仕上げ研磨)、および洗浄装置の導入に1,500万ドルを投資。
- 杭氧全球(寧波)智能重工(Hangyang Global (Ningbo) Intelligent Heavy Industry Co.)：大型モジュール式極低温機器のスマート製造プロジェクトに7,800万ドルを投資。
- 力高新能源技術(Ligoo New Energy Technology Co.)：山東省における新施設の建設および生産設備の導入に4,600万ドルを投資。同プロジェクトは、電気自動車(EV)用バッテリー制御システムの研究開発および製造を目的とする。
- ZF（張家港)汽車科技(ZF (Zhang Jia Gang) Auto Sci & Tech Co. of Jiangsu)：電動ブースト・ステアリング装置の製造プロジェクトに1,700万ドルを投資。

（AMT ONLINE　2026年10月8日付）

◆海外業界動向：インド

インドの製造業経済は、短期的には減速傾向にあるものの、全体としては底堅さを維持したまま2026年後半に入った。4月から6月にかけての実質GDPは7.8%成長し、これは投資の11.9%増と輸出の12%増に支えられた。7月のインド鉱工業生産指数(IIP)は6.7%上昇し、内訳では製造業が7.3%、電力・ガスが8.7%、資本財が16.1%と特に高い伸びを示した。好調な分野としては、電気機器、自動車、機械などが挙げられる。

8月のインド製造業購買担当者景気指数(PMI)は52.8(過去5年間で最低水準)へと低下した。新規受注や生産が鈍化し、工場の雇用者数も30ヶ月ぶりにわずかながら減少した。投入コストの上昇圧力は和らぎ、企業マインドは依然として前向きな水準を維持している。短期的な産業の勢いは弱まったものの、投資の動きは半導体、エレクトロニクス、自動車、航空宇宙、再生可能エネルギー、金属、化学、医療機器製造といった幅広い分野へと拡大し続けている。

エレクトロニクス・半導体

メインドの半導体戦略は、単なる製造工場(ファブ)や組み立てにとどまらず、装置、材料、化学薬品、基板、設計、精密製造を含む、より広範なエコシステム(産業生態系)の構築へと移行しつつある。

総額135億ドルの「Semicon 2.0」プログラムの下、9月までに半導体装置、材料、ガス、化学薬品、基板などの分野で約120億ドル規模の新規投資提案が寄せられ、約10万人の雇用創出が見込まれている。

アプライド・マテリアルズ（Applied Materials)：今後 10 年間で 50 億ドルを投資し、研究開発(R&D)、装置製造、サプライチェーンの構築、人材の拡充を行う計画。カルナータカ州が主要拠点となり、ベンガルール・シグネチャー・ビジネス・パークにおける半導体装置製造および R&D に関する 39 億ドル規模の覚書（MOU）も別途締結されている。

ラム・リサーチ（Lam Research）：インド国内に半導体装置の製造体制を構築する計画であり、これにより世界の半導体装置サプライチェーンにおける同国の地位が強化される見込みです。

タタ・エレクトロニクス（Tata Electronics）／ネクスペリア（Nexperia）：ウェハ製造、組み立て、検査を対象とした提携関係にある。電力制御用チップがドレラ（Dholera）で生産され、タタのアッサム州の施設でパッケージング（後工程）が行われる予定。これは、自動車、産業機器、パワーエレクトロニクスといった用途において特に重要な意味を持つ。

「電子部品製造スキーム（ECMS）」では 8 月に 31 件のプロジェクトが新たに追加され、承認済みプロジェクト数は計 106 件、投資総額（コミットメントベース）は約 79 億ドルに達した。対象となるプロジェクトには、これまでインドが主に輸入に頼っていたディスプレイモジュール、プリント基板、カメラ用部品、その他の精密電子機器などが含まれている。

自動車・電気自動車（EV）

自動車分野への投資は、既存の自動車メーカーや新興EV企業の事業拡大に伴い、幅広い領域で続いている。

タミル・ナードゥ州は8月、自動車、再生可能エネルギー、エレクトロニクス、データセンター、航空宇宙などの分野で、総額約70億5,000万ドルに上る97件の投資協定を締結した。そのうち自動車関連のプロジェクトは約17億9,000万ドルを占めている。

Spark Minda（スパーク・ミンダ）：ウッタル・プラデーシュ州 YEIDA（ヤムナ・エクスプレスウェイ産業開発公社）地域における 2 つの新規工場（グリーンフィールド投資）に 1 億 3,300 万ドルを投資。これらの工場ではイグニッションスイッチ、ステアリングロック、メカトロニクス部品が製造され、約 6,440 人の雇用創出が見込まれている。

Ultraviolette（ウルトラバイオレット）：タミル・ナードゥ州ホスールに 8,200 万ドルを投じて EV 製造工場を建設。初期生産能力は年間 25 万台で、将来的に 50 万台まで拡大する可能性がある。

EV 関連のエコシステム全体においても、バッテリー、充電システム、電気モーター、パワーエレクトロニクス、および関連部品への投資が活発化しています。AMT（米国製造技術協会）の会員企業にとっては、精密加工、ロボット工学、自動化、試験・検査、計測、高度な生産システムといった分野で継続的なビジネスチャンスが生まれることを意味する。

防衛・航空宇宙：「メイド・イン・インド」から世界へ

インドの航空宇宙･防衛製造エコシステムも、より付加価値の高い生産体制への移行と、グローバル･サプライチェーンへの統合深化を進めている。

Tata Boeing Aerospace（タタ･ボーイング･エアロスペース）は、ハイデラバードで製造された「アパッチ」ヘリコプターの機体（胴体部分）の400機目を納入した。これは、インドの製造拠点が、世界の主要プログラムに対応できる規模で航空宇宙分野の重要構造部品を生産する能力を確立していることを実証するものである。

Tata Advanced Systems（タタ・アドバンスト・システムズ）は、ミサイルの共同生産の可能性を検討するため、「ジャベリン（Javelin）」の合弁事業体と協定を締結した。国防省の第6次国産化推進リストは、ヘリコプター、戦闘機、装甲車両、軍艦、ミサイルシステムなど405品目を対象としており、インドのサプライヤーおよび中小企業にとって約3,400万ドルのビジネスチャンスがあると推定されている。

DRDO（国防研究開発機構）による継続的な技術移転イニシアチブと試験施設へのアクセス改善により、インドのディープテック企業にとっての参入障壁はさらに低くなっている。その結果、需要は従来の機械加工にとどまらず、多軸加工、複合材料、積層造形、ツーリング、計測、検査、そして高度な生産技術へと広がっている。

再生可能エネルギーと重要材料

インドは、クリーンエネルギーへの野望を支える上流製造基盤の国内化をますます進めている。

アガスティア・グリーン・エナジー：8 億 1,600 万ドル
アーンドラ・プラデーシュ州における 12GW 規模の太陽光発電用インゴット・ウェハー製造施設の計画。

Shakti Pumps：マディヤ・プラデーシュ州における 2.2GW 規模の太陽電池セル・モジュール製造施設。

Lohum：リチウムおよび希土類（レアアース）の処理に加え、ニッケル生産を拡大するための 3 億 1,500 万ドルの資金調達目標。
インドでは、バッテリー、太陽光発電モジュール、その他のクリーンエネルギー技術に必要な材料や中間製品の現地生産化（ローカライゼーション）が進められており、これにより、プロセス機器、自動化、マテリアルハンドリング、精密生産、品質管理技術といった分野で新たな機会が創出されている。

鉄鋼・金属・産業機械

Jindal Stainless：自動車、家電、食品加工、産業用途向けに、ヒサール、カラグプール、ジャジプールの各拠点で冷間圧延能力を増強するため、1 億 200 万ドルを投資。

Lloyds Metalsはマハーラーシュトラ州で直接還元鉄（DRI）の事業を拡大しており、インド国内の鉄鋼生産能力増強に向けた取り組みを支援している。

この期間における最大級の産業プロジェクト案の一つが、オディシャ州でのAdani（アダニ）とIHCによるアルミニウム一貫生産プロジェクトであり、その推定総額は約115億ドルに上ります。同プロジェクトには、アルミナ精製所、アルミニウム製錬所、自家発電設備、および下流工程の製造施設が含まれる。これは、オディシャ州における再生可能エネルギー、ヘルスケア、産業開発にわたる14のプロジェクトを網羅した、総額250億ドル規模のAdani–IHC投資パッケージの一環。

化学・医療機器製造・産業回廊

BASFはグジャラート州ダヘジで産業用地を確保し、断熱材、冷凍・冷蔵設備、自動車部品などのポリウレタン用途に使われる原料「MDI」の生産コンプレックス建設を検討している。投資の実施は実現可能性の評価や承認取得を前提としているが、用地の確保は、重要な産業用資材の現地生産化に向けた大きな一歩と言える。

Ansell：インド国内および輸出市場向けの手術用手袋製造施設（投資額 6,000 万ドル）。
インフラ面では、インドの「国家産業回廊開発公社（NICDC）」が 13 の州にまたがる 20 の産業スマートシティ開発計画を特定しており、これに伴う潜在的な投資額は約 610 億ドルに達すると見込まれている。製造業の地理的な分散はますます重要性を増しており、グジャラート州とマハラシュトラ州はエレクトロニクス産業を強化し、タミル・ナードゥ州は自動車および再生可能エネルギー製造を拡大、カルナータカ州は半導体製造装置と航空宇宙産業を開発、アーンドラ・プラデーシュ州は太陽光発電材料への投資を誘致、ウッタル・プラデーシュ州はエレクトロニクスおよび自動車部品の生産能力を構築している。

展望　8月の減速は注目に値するが、より広範な投資状況と合わせて検討する必要がある。GDP成長率7.8%、7月の鉱工業生産指数（IIP）6.7%増、資本財成長率16.1%増、そして幅広い産業分野における大規模な投資継続は、構造的にプラスの製造サイクルが続いていることを示している。

さらに重要なのは、投資の性質が変化していることである。アプライド・マテリアルズとラム・リサーチは半導体製造装置の生産能力を確立し、タタ・ボーイングはグローバルプログラム規模で航空宇宙構造物を供給し、アーンドラ・プラデーシュ州は太陽光発電の上流工程の生産能力を構築し、オリッサ州は大規模なアルミニウム統合生産体制を構築しようとしている。

したがって、インドにおけるビジネスチャンスは、従来の工作機械需要をはるかに超えるものとなっている。CNC加工、金属切削技術、自動化、ロボット工学、積層造形、計測、半導体製造装置、ツーリング、そして高度な製造システムといった分野は、これらの新たな産業エコシステムにおいて、ますます必要とされるようになるであろう。

インドは、大規模な製造市場から、より統合されたグローバルな製造・サプライチェーンパートナーへと徐々に移行しており、2027年度末まで、広範かつ高度化するビジネスチャンスが広がっている。

（AMT ONLINE　2026年9月29日）

◆米国通商政策動向：中国の AI 企業 6 社に関する共同勧告

CISA（サイバーセキュリティ・インフラセキュリティ庁）、NSA（国家安全保障局）、およびFBI（連邦捜査局）による共同勧告は、DeepSeek、Moonshot AI、Alibaba、MiniMax、StepFun、Z.AIという中国のAI企業6社が、Anthropic、Google、OpenAI、xAIが開発したモデルから出力を得るために大量のリクエストを行ったと指摘している。これらの機関によると、当該企業は、推論、コーディング、執筆、法務分析、自動化タスクなどの能力を向上させるために、それらの出力を利用しようとしていたとのことである。勧告では、この一連の活動を、規模を隠蔽したりアクセス制限を回避したりする手法を伴う「不正なモデル蒸留（モデル・ディスティレーション）」であると位置づけている。

同勧告は、AIプロバイダーがデータ抽出の試みを検知できるよう、アカウント認証の強化、監視、レート制限、記録の保存、および情報共有を行うことを推奨している。また、AIモデルへのアクセスを提供する組織や、当該企業のモデルを利用する組織に対し、ベンダーの審査、データの出所(プロベナンス)、契約上の管理措置、規制上のリスクといった課題を提起している。勧告には、各機関による指摘事項や推奨される保護策が記載されている。それ自体が新たな法的禁止を確立したり、企業の行為について判断を下したりするものではない。

(Global USA　2026年10月4日)

◆米国通商政策動向：EU デュアルユース（軍民両用）規制

欧州委員会は、EUデュアルユース規制の附属書Iの改定を採択し、加盟国全体で輸出管理の対象となる物品、ソフトウェア、技術の共通リストを拡大･修正した。この変更は、ワッセナー･アレンジメント、オーストラリア・グループ、原子力供給国グループ(NSG)による決定や、ワッセナー・アレンジメントのEU加盟国が合意した追加のコミットメントを反映したものである。この改定は、欧州議会および理事会による異議申し立てが可能な2ヶ月の期間を経て、EU官報に掲載された時点で発効する。

追加対象には、特定の半導体製造・検査装置、高度な演算処理を行う集積回路、高温用複合材料、誘導式ロータリーエンコーダ、エネルギー物質の積層造形(アディティブ・マニュファクチャリング)装置、炭化ケイ素繊維製造装置、ガスタービン圧縮機技術などが含まれる。また、今回の改正では一部の技術的定義や管理パラメータも変更されており、既存製品の分類に影響が及ぶ可能性がある。

輸出業者は、改正リストの発効前に、製品や技術の分類、ライセンス要件、進行中の取引、および技術情報への国境を越えたアクセスについて見直しを行う必要があるかもしれない。EUと米国の双方の輸出管理規則の下で事業を行う企業は、一方の制度における分類が他方の分類を決定するわけではないため、両制度を個別に評価する必要がある。

(Global USA　2026年10月4日)

◆米国通商政策動向：管理対象の技術やソフトウェアのアップロードが輸出管理の対象となる可能性

AIサービスへの管理対象技術やソフトウェアのアップロードは、物理的な物品が国境を越えて移動しない場合であっても、輸出管理要件の対象となる可能性がある。EU、米国、英国の規則に関する分析において、Bird & Birdのカウンセルであるニコロ・クシマノ(Nicolò Cusimano)氏は、その判断は、当該情報の分類、処理場所、アクセス権限を持つ者、および使用方法によって異なると説明している。契約先のAIプロバイダーは関係者の一部に過ぎない可能性があり、クラウド事業者、サブプロセッサー、あるいは他法域の担当者もアクセス権を持つ場合がある。

AIが生成した技術的推奨事項が、管理対象情報を再現または派生させたものである場合、別途検討が必要となる可能性がある。クシマノ氏は、従業員によるアップロード、データの流れ、アクセス権限、および出力内容を精査し、企業がAIガバナンスの中に輸出管理を組み込むことを推奨している。受領者や処理の取り決めを特定できない場合、企業は制限を設ける必要があるかもしれない。

(Global USA　2026年10月4日)

◆米国通商政策動向：韓国の半導体製造装置サプライヤー

韓国の半導体製造装置サプライヤーは、戦略物資の輸出管理強化により、海外への出荷が遅延し、納入スケジュールの予測が困難になっていると報告している。報告によると、企業は輸出に先立ち、個々の装置が詳細な技術的基準を満たしているかを確認し、裏付けとなる文書を準備した上で、政府の承認を得る必要がある。サプライヤーによると、以前は数日で処理された申請が現在では2ヶ月以上かかる場合があるほか、特定の技術仕様に関する照会への回答が数週間にわたって得られないケースもあるという。

こうした遅延の影響は、単なる出荷の遅れにとどまりまらない。半導体製造装置は、多くの場合、工場の建設、据付、生産開始といった一連の計画に合わせて納入される。承認時期が不透明だと、サプライヤーは輸送や据付チームの手配ができず、半導体メーカー側も生産ラインの稼働時期を計画しにくくなる恐れがある。

米国の技術やソフトウェアを使用している企業は、米国と韓国の双方から個別に輸出管理の審査を受ける可能性がある。一方の政府から承認を得たからといって、もう一方の政府の要件が自動的に満たされるわけではない。そのためサプライヤーは、装置の構成部品、技術的性能、仕向地、用途などを詳細に文書化する追加業務に追われている。規制対象となる部品の使用を避けるための設計変更を検討する企業もあるが、そうした変更は開発コストの増大や追加試験の必要性を招く可能性があると指摘されている。

この問題は、米国や中国にある工場を含め、韓国の半導体メーカーが海外で運営する拠点にも及んでいる。これらの拠点に送られる装置も「輸出」とみなされるため、たとえ長年の取引先であっても審査が必要となる場合がある。中国は韓国製半導体製造装置の主要な仕向地であるため、サプライヤーは、こうした遅延が受注や顧客との約束に及ぼす累積的な影響を特に懸念している。

業界関係者は、技術基準、文書要件、承認プロセスの所要時間について、より明確な指針を示すよう求めている。手続きの予測可能性が高まれば、サプライヤーは機微な技術への管理を維持しつつ、より早い段階で装置の分類や出荷計画の策定を行えるようになる。なお、報告にある遅延期間、コスト、貿易シェアに関する具体的な数値は業界による推定値であり、本稿において独自に検証されたものではない。

（Global USA　2026年10月4日）

◆米国通商政策動向：輸出許可申請の処理

トランプ大統領と中国の習近平国家主席による首脳会談を経て関税引き上げが一時的に停止されたものの、機微な技術やデュアルユース（軍民両用）技術に関する輸出許可申請は、標準的あるいは「通常」の条件下では処理されていない。

米商務省産業安全保障局（BIS）は、エンドユーザー（最終使用者）に関する厳格な個別審査や法的規制の運用を継続している。高度なAIハードウェア、半導体、デュアルユース部品といった重要技術の輸出許可については、依然として厳しい規制上の審査や関税、あるいは明示的な条件付き免除の対象となっている。

中国政府もまた、重要鉱物（インジウム、ガリウム、ゲルマニウム、アンチモンなど）や規制対象となる化学前駆物質について、独自の厳格な輸出許可要件を維持している。中国はこれらの輸出に中央政府の承認や許可を義務付けており、これらは通常の商取引というよりは、戦略的な交渉のカードとして機能し続けている。

両国政府は、当面の貿易摩擦を管理するために米中貿易委員会や投資委員会といった外交的枠組みを設置したが、技術規制の基本方針を撤回したり、輸出許可の枠組みを撤廃したりするような構造的な譲歩は、いずれの側も行っていない。

（Global USA　2026年10月11日）

3. 工作機械関連企業動向

◆ CHIRON グループ、AMB 2026 で好調な結果を発表

2026年9月16日～19日までドイツ・シュトゥットガルトで開催されたAMB展には、76カ国から約65,000人の業界関係者が訪れた。そして、ホール10の中心に位置するのがCHIRONグループであった。展示では、加工技術、自動化、デジタルソリューションを組み合わせた統合製造コンセプトに焦点が当てられた。その応用範囲は、医療技術や精密工学向けの繊細な精密部品から、航空宇宙産業向けの大型重量部品まで多岐にわたる。

満員のブースと来場者の注目：9月15日のAMB 2026の公式開幕直後から、CHIRONグループのブースは活気に満ち溢れていた。展示品は金属加工を行い、未来を見据えた製造ソリューションへの強い関心を集めていた。来場者はブースをじっくりと見て、専門家に質問し、技術的な詳細について議論を交わした。その中には、メッセ・シュトゥットガルトの特別ゲストであるカティ・ヴィルヘルム氏もいた。元世界トップクラスのバイアスロン選手である彼女は、CEOのローマン・ガイダ氏と、エリートスポーツと精密で高性能な製造業との共通点について語り合った。

自動化と卓越した加工技術の融合

「完全自動化されたMicro5 XL、MT 715 two+、新型5軸加工機MILL 2000、そしてパレット自動化システムを搭載した5軸加工機FZ 16 SとFZ 19 Sなど、あらゆる機種を展示し、私たちの理念を余すところなく表現した。私たちは金属に工具を当て、切削屑を生み出します。AMBのような展示会は、まさにそのことを体現している」と、ロマン・ガイダ氏は語った。

「妥協のない品質。超小型から超大型まで。」ブースの壁に掲げられたこの言葉は、CHIRONグループの能力を雄弁に物語っていた。「超小型」を象徴するMicro5 XLは、医療技術、精密工学、機械工学、エレクトロニクス、金型製作など、複雑な精密部品加工向けに高精度な自動5軸加工を実現した。

複雑なワークピースの精密かつコスト効率の高い完全加工を実現するMT 715 two+は、機械工学分野などで大きな注目を集めた。フライス加工と旋削加工は、歯車切削や多角形旋削などの追加工程と任意の順序で組み合わせることができる。これにより、再クランプ時間とスループット時間を短縮しながら、複雑なワークピースの再現性の高い品質を確保する。

新型5軸加工機MILL 2000もまた、多くの注目を集めた。トルク技術を搭載した回転軸と旋回軸を備え、同時5軸加工を実現するとともに、様々な要件に柔軟に対応できる機械コンセプトを採用している。一貫した標準化により、投資コストを最大25%削減できる。ベッド長は最大12,000mmで、MILLシリーズは、機械工学における小～中量生産の高度なフライス加工から、航空宇宙分野の大型構造部品まで、幅広い用途に対応する。

CHIRONグループの包括的なソリューションには、サービス、自動化、再生、スピンドル修理も含まれる。専用テーマエリアでは、専門家が製品ポートフォリオを紹介し、個別のご相談に対応した。

（Chiron News Release　2026年10月5日）

◆ Mikron Automation、IEC 62443-4-1 認証を取得

Mikron Automationは、スイスのブードリーおよび米国デンバーの拠点において、IEC 62443-4-1認証を取得した。これは、製品開発のライフサイクル全体を通じてサイバーセキュリティを統合するという同社の取り組みを証明するものである。認証パートナーであるCertXと緊密に連携し、産業オートメーションおよび制御システム製品に向けた、確立されたセキュア開発プラクティスを導入した。

本認証は、Mikron AutomationがIEC 62443-4-1に準拠した、体系的かつ監査可能で、再現性のあるプロセスを構築したことを裏付けるものである。このプロセスには、サイバーセキュリティ管理、セキュリティ要件の定義、セキュアな設計、セキュアな実装、検証・妥当性確認、欠陥管理、セキュリティアップデート管理、および脆弱性への対応が含まれる。これらのプロセスにより、製品開発の初期段階からライフサイクル全体の保守に至るまで、サイバーセキュリティに関する検討事項が体系的に組み込まれることが保証される。

産業機器メーカーがサイバーセキュリティ上の課題増大や、顧客からのより厳格な要求に直面する中、IEC 62443-4-1認証の取得は、信頼性が高く、強靭(レジリエント)で、将来を見据えたオートメーションソリューションを提供するMikron Automationの能力を強化するものである。また、世界的に認められたベストプラクティスに基づき、同社の開発プロセスにサイバーセキュリティが組み込まれているという確信を顧客に提供する。

(Mikron Press Release　2026年9月)

◆ティッセンクルップ・オートモーティブ・テクノロジーとイノバンス・オートモーティブ、ステア・バイ・ワイヤ分野で戦略的パートナーシップを締結

ティッセンクルップ・オートモーティブ・テクノロジー(thyssenkrupp Automotive Technology)と、中国のテクノロジー企業であるイノバンス・オートモーティブ(Inovance Automotive)は、ステア・バイ・ワイヤ分野において戦略的協力関係を築くことで合意した。両社は、今後の協力の枠組みを定めた覚書(MoU)を締結した。この協力関係では、ティッセンクルップが持つシャシーおよびステアリングに関する専門知識と、イノバンス・オートモーティブが強みとするエレクトロニクス、ソフトウェア、アクチュエーター、そして工業化の知見を融合させる。その目的は、中国市場および国際市場に向けたステア・バイ・ワイヤ・システムの開発と工業化を加速させることである。

「中国は現在、新しいシャシー技術の開発と工業化を急速に進めている。イノバンス・オートモーティブは、市場や顧客、そして工業化プロセスを深く理解しているパートナーです。彼らのこうした能力と、当社のステアリング、システム統合、機能安全に関する専門知識を組み合わせることで、ステア・バイ・ワイヤ・ソリューションの量産準備をより迅速に進めるとともに、中国を超えたさらなる成長の基盤を築いていきたいと考えている。」

ステア・バイ・ワイヤ・システムでは、ステアリング操作の指令が電子的に伝達されるため、ステアリングホイールと車輪の間に機械的な接続を設ける必要がなくなる。その結果、エレクトロニクス、ソフトウェア、機能安全、そして車両アーキテクチャへの統合といった要素が、これまで以上に重要となる。ティッセンクルップ(thyssenkrupp)は長年にわたりステア・バイ・ワイヤ技術を開発しており、ステアリング、システム統合、機能安全の分野において、社内に豊富なエンジニアリングおよびシステムに関する専門知識を有している。ティッセンクルップ・オートモーティブ・テクノロジー(thyssenkrupp Automotive Technology)は、こうしたノウハウに加え、ステアリングシステムの開発および製品化(工業化)における経験を本提携に提供する。一方、イノバンス・オートモーティブ(Inovance Automotive)は、エレクトロニクス、ソフトウェア、アクチュエーターに関する専門知識に加え、中国における開発・製造・製品化の能力をもって、これらの強みを補完する。

(tyssenkrupp　2026年10月14日)

◆ティッセンクルップ・オートモーティブ・テクノロジー、インド・プネに新たなエンジニアリングセンターを開設

ティッセンクルップ・オートモーティブ・テクノロジーは、インドのプネに新たなエンジニアリングセンターを正式に開設した。これは、同社のグローバルな研究開発(R&D)ネットワークを拡大する上での新たな一歩となる。初期の立ち上げフェーズを経て、現在同拠点では120名以上のエンジニアが、国際的な顧客プログラムに向けたソフトウェア、ハードウェア、システム、機械開発に取り組んでいる。同社は、今後数年間でプネのチームを300名以上の規模にまで拡大する計画。

この新センターは、車両の「ソフトウェア定義型(Software-Defined)」化、コネクテッド化、自動化が進む中で重要性を増している分野において、ティッセンクルップ・オートモーティブ・テクノロジーの能力を強化するものである。

主な業務分野には、組み込みシステム、機能安全、サイバーセキュリティ、高度なシャシー技術などが含まれる。プネのエンジニアは、国際的な開発チームと緊密に連携し、次世代のステアリングおよびシャシーシステム向け技術をはじめとする、グローバルな顧客プロジェクトの開発ライフサイクル全体に貢献している。

自動車産業の変革は、ソフトウェア、エレクトロニクス、そして世界各地で連携するエンジニアリングチームによってますます加速している。プネに新設したエンジニアリングセンターを通じて、こうした能力を強化し、世界中の顧客のためにさらなる開発リソースを創出していく。インドには極めて優秀なエンジニアリングおよびソフトウェア関連の人材が豊富に揃っており、グローバル開発ネットワークにおいて、今後ますます重要な役割を担うことになる。

プネ拠点の計画は2025年に初めて発表された。それ以来、段階的に整備が進められ、ティッセンクルップ・オートモーティブ・テクノロジー社のグローバル・エンジニアリング・ネットワークに統合されてきた。今回の正式な開設は、同拠点の発展とさらなる拡大に向けた新たな段階の始まりを意味する。

(thyssenkrupp　2026年10月8日)

4. 展示会情報

◆米国「IMTS 2026」で確認した製造オートメーションの未来

米国製造業の最新技術が一堂に会した IMTS 2026

2026年米国工作機械展示会（International Manufacturing Technology Show, IMTS）が、9月14日（月）から19日（土）までの6日間、米国イリノイ州シカゴのマコーミック・プレイスで開催された。米国製造技術協会（Association for Manufacturing Technology, AMT）が主催するIMTSは、世界の主要な製造技術展示会の一つであり、グローバルな製造企業や業界関係者が最新の設備や技術を確認し、新たな協力機会を模索する場である。

今回の展示会では、工作機械や切削･成形装置をはじめ、産業用ロボット、オートメーションシステム、積層造形、品質管理ソリューション、人工知能（AI）ベースの製造技術などが幅広く紹介された。特に、米国内の生産施設への投資が拡大し、製造人材の不足が続く中で、生産性を高め、作業工程を効率化できる自動化・デジタル製造技術が注目を集めた。

KOTRAシカゴ貿易館は、今回の展示会で韓国館を運営し、国内企業20社の参加を支援した。参加企業は工作機械および関連部品、切削工具、自動化ソリューションなど多様な製品と技術を披露し、現地バイヤーや業界関係者と商談を行い、米国市場への進出と新規取引先の開拓可能性を模索した。

展示会現場スケッチ

2026年IMTSは、展示品目に基づき、計10の技術分野で構成された。ノース館には自動化と産業用AI、研削・切削・表面処理およびギア加工技術が展示され、サウス館では金属切削と積層造形技術が併せて披露された。イースト館には、金属成形・レーザー加工、品質検査、製造ソフトウェアおよび機械部品関連企業が入居している。ウェスト館は切削工具と工作物固定装置の分野で構成されている。

特に2026年には、積層造形分野が金属切削分野と並んで位置付けられた。これに伴い、積層造形で製作した部品を切削・研磨する後加工技術と、両工程を組み合わせたハイブリッド製造ソリューションを、1つの展示館で見られるよう構成された。ノース館には、製造現場で活用される。

「不可能を現実に」、製造業の限界を広げる技術に注目

2026年のIMTSの公式テーマは「不可能を可能に（Achieve the Impossible）」である。これは、製造企業がAIや自動化、積層造形、先端加工技術などを活用し、人手不足や複雑化する製品設計など現場の課題を解決することを意味している。今年の展示会では、新しい技術を実際の製造工程に適用し、生産時間を短縮し、品質と設備稼働率を向上させることができる具体的な活用事例が紹介された。

最も顕著な流れは、AIと自動化の融合であった。「産業用AIアリーナ」では、品質検査、工程最適化、設備停止の削減、サイバーセキュリティ、作業者の安全確保および需要予測などに活用されるAIツールとプラットフォームが展示された。自動化展示分野でも、ロボットアームやビジョンシステム、モーション制御装置だけでなく、デジタルツイン、シミュレーション、生成設計、AI・機械学習、製造実行システム（MES）および全社的資源管理（ERP）連携ソリューションが紹介された。

アマゾンウェブサービス（AWS）、グーグルクラウド（Google Cloud）、マイクロソフト（MS）などのグローバル技術企業も自動化分野に参加し、製造現場に適用できるAIとクラウド技術を披露した。この中でグーグルは、日本の産業用ロボット企業ファナック（FANUC）と協力して開発したフィジカルAI技術を展示した。現場デモでは、グーグルのAIエージェントが自然言語で入力された作業指示を解釈し、それをファナックの産業用ロボットと協働ロボットが実行可能な動作に変換する過程を示した。

産業用ロボットを直接加工工程に適用した事例も確認できた。ドイツのロボット企業KUKA（クーカ）は、産業用ロボットアームの先端に回転スピンドルと切削工具を装着し、金属素材を削るロボットミリング技術を実演した。ロボットが工作物の周囲を移動し、さまざまな方向から切削できるため、大型かつ複雑な形状の部品を加工でき、生産品目や作業条件の変化に柔軟に対応できる点が特徴である。

また、複数の加工工程を1台の装置で行う複合加工技術も注目を集めた。日本の工作機械企業MAZAK（Mazak）は、複合加工CNCターニングセンター「QUICK TURN 250MSY（クイックターン250MSY）」を展示した。この装置は主軸と補助主軸、ミリング機能およびY軸加工機能を備えており、旋削、ミリング、穴あけ、部品の両面加工を1台の装置で行える。クイックターン250MSYは、ワークを複数の装置へ移し、再固定する工程を短縮することで生産時間を削減し、ワークの再固定工程で生じ得る加工誤差を低減するよう設計されている。

精密技術とカスタマイズ対応力が、米国市場での競争力を左右する

今回のIMTSに参加した国内のリニアモーションシステム企業A社の関係者は、KOTRAシカゴ貿易館とのインタビューで、「製造業全般で自動化の需要が増加し、関連市場に参入する企業も増えて、競争が一層激しくなっている」と述べた。このような市場環境において、米国のバイヤーは価格だけでなく、製品の精度や耐久性、そして生産環境に合わせて設計を変更できる技術力を主要な評価要素として考慮していることが明らかになった。

A社は、高温環境で使用できる製品や、ローラーを互いに反対方向に配置した構造など、顧客の要望に応じた受注生産が可能である点を強みとして挙げた。A社の関係者は「標準製品を供給するだけで終わらず、顧客が求める使用環境や構造に合わせて製品を設計できなければならない」と述べ、「社内の研究開発（R&D）人員が設計と製品開発を直接担当しているため、多様な現場の要求に対応できる」と説明した。

現地のサプライチェーンとアフターサービス能力も、取引成立に影響を与える主要因として挙げられた。A社の関係者は「米国のバイヤーは、現地に倉庫や在庫があるか、注文した製品を迅速に供給してもらえるかを重要視して確認する」と述べ、「使用過程で摩耗する部品を米国内で修理または交換できるかどうかも、購入決定に影響を与える」と明らかにした。A社は米国内の生産拠点を基盤にアフターサービスを提供し、現地顧客の保守需要に対応している。

示唆点

今回のIMTSでは、AIと自動化技術が工作機械やロボット、品質検査装置、製造ソフトウェアと組み合わされ、実際の生産現場に適用される事例が多数紹介された。特に、自然言語でロボットに作業を指示したり、複数の装置で収集したデータを分析して工程をリアルタイムに調整したりする技術が登場し、製造自動化の適用範囲が一層拡大している。

グローバルコンサルティング企業のデロイトと、米国製造業協会傘下の製造業研究所によると、2024年から2033年にかけて米国の製造業では約380万人の新規人材が必要だが、人材および技術のギャップが解消されない場合、その半数にあたる約190万件の雇用が補充されないと見込まれている。これに伴い、人手不足の問題に対応できるよう、個別装置の性能向上にとどまらず、既存の生産設備と連携して工程全体の生産性を向上させる統合自動化ソリューションへの需要が継続すると予想される。

米国のバイヤーは、製品の性能とともに、納期、現地在庫、およびアフターサービスの可否を重要視して評価している。これに伴い、現地倉庫に一定水準の在庫を確保するか、流通業者およびサービス企業と協力して、部品交換や修理依頼に迅速に対応できる体制を整えることが重要であると考えられる。米国内に生産拠点を短期間で構築することが難しい中小企業は、現地代理店やシステムインテグレーター、装置メーカーとの協力を通じて、供給および技術支援能力を補完する方策を検討することができる。

米国市場に進出する際、製品の精度と品質の一貫性を客観的な資料で証明し、顧客の作業環境と設備構造に合わせた設計能力を具体的に示す必要がある。先に見た参加企業の事例のように、品質管理方式や検査周期、サンプルテストの結果などを数値や資料で示せば、製品の安定性を証明し、新規バイヤーの信頼を確保するのに役立つ。今回のIMTS展示で確認された市場需要を踏まえると、製品供給にとどまらず、カスタマイズ設計や安定した品質管理、現地供給およびアフターサービスまで連携した市場進出戦略を策定すべきであると考えられる。

資料：KOTRAシカゴ貿易館、参加企業インタビュー、IMTS、デロイト、米国製造業研究所など

（kotra海外ニュース　9月28日付）

https://dream.kotra.or.kr/kotranews/cms/news/actionKotraBoardDetail.do?SITE_NO=3&MENU_ID=110&CONTENTS_NO=1&bbsGbn=245&bbsSn=245&pNttSn=244296

5. 日工会外需状況（9 月）

外需【9月分】

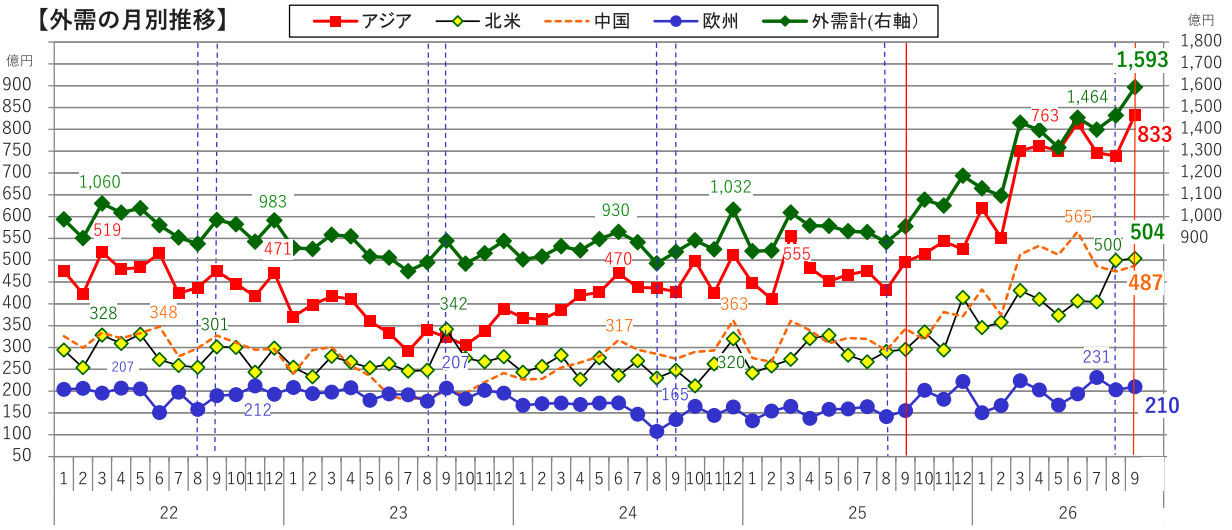
1,592.8億円（前月比　＋8.8%　　前年比 ＋ 66.8%）

外需額

・前月比は2カ月連続増加、前年比では24カ月連続の増加、統計開始以降、最高額（2026年8月の1,463.5億円）を更新

・外需は、不透明な国際情勢の中、欧米の投資喚起政策の効果と、北米、アジアでの投資が持続し、高い水準が続く

【外需の月別推移】



出所：日本工作機械工業会

外需【9月分】

主要3極別受注

①アジア

アジア計は、7カ月連続 700億円超え。統計開始以降最高額を更新（26年6月814.2億円）

-東アジアは、11カ月連続400億円超え、550億円超えは7カ月連続

-中国は、11カ月連続350億円超えと高い水準で推移

-その他アジアは2015年2月期（139カ月ぶり）に200億円を超え

-インドは6カ月ぶりに110億円超え、統計開始以降2番目に高い水準

②欧州

欧州計は、3カ月連続の200億円超え

-ドイツは、前月比で減少も、3カ月連続の45億円超えと近年では高めの推移

-イタリアは、3カ月ぶりに30億円を割れ

③北米

北米計は、統計開始以降、初めての500億円超え

- アメリカは、4カ月連続の350億円を上回り、統計開始後初めて450億円超え

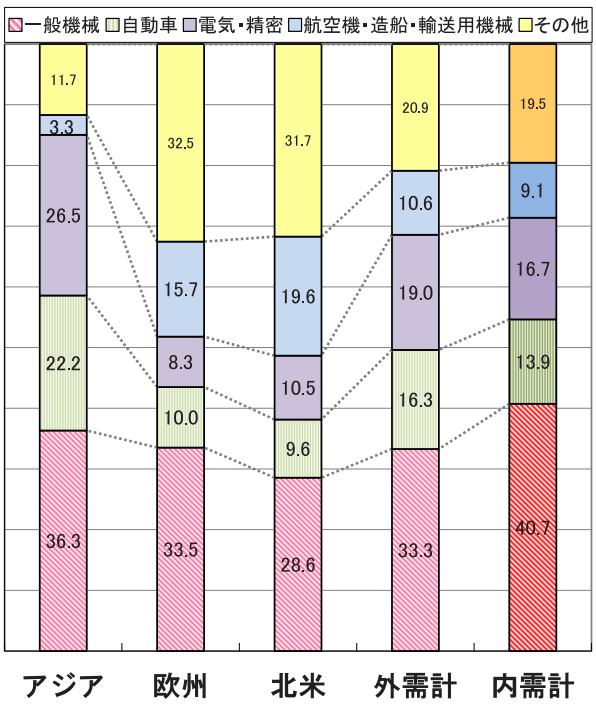
- メキシコは、2カ月ぶりに30億円を割れ

国・地域	受注額（億円）	前月比（%）	前年比（%）
アジア	**833.0**	**＋12.8** **3カ月ぶり増加**	**＋67.9** **13カ月連続増加**
東アジア	**607.3**	＋9.9 3カ月ぶり増加	＋58.6 13カ月連続増加
韓 国	**78.6**	＋72.7 2カ月ぶり増加	＋210.4 4カ月連続増加
中 国	**487.4**	＋2.8 3カ月ぶり増加	＋42.2 30カ月連続増加
その他アジア	**225.6**	＋21.4 2カ月連続増加	＋99.4 8カ月連続増加
インド	**115.4**	＋18.8 2カ月連続増加	＋116.8 8カ月連続増加
欧州	**210.4**	**＋3.6** **2カ月ぶり増加**	**＋35.4** **15カ月連続増加**
ドイツ	**46.2**	△5.8 4カ月ぶり減少	＋28.2 3カ月連続増加
イタリア	**24.7**	△24.0 3カ月ぶり減少	＋9.6 4カ月連続増加
北米	**504.0**	**＋0.9** **2カ月連続増加**	**＋70.6** **14カ月連続増加**
アメリカ	**459.1**	＋2.9 4カ月連続増加	＋77.2 20カ月連続増加
メキシコ	**22.1**	△34.1 2カ月ぶり減少	△13.0 2カ月ぶり減少

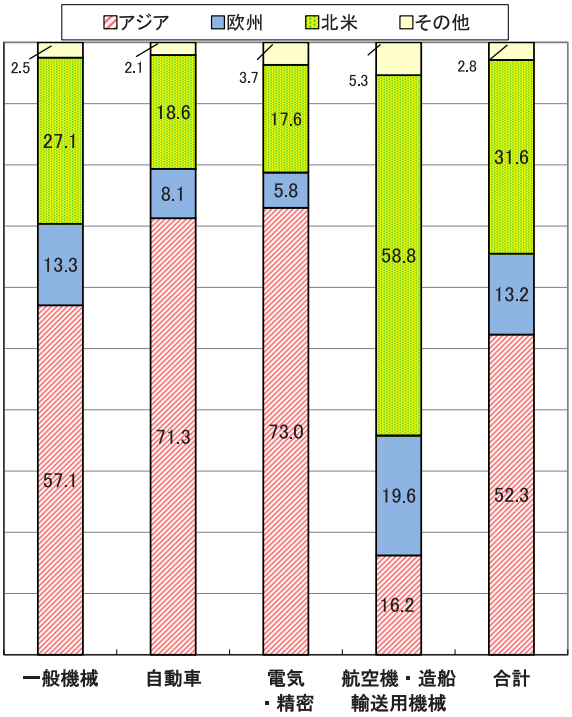
出所：日本工作機械工業会

外需【9月分】

主要3極別・業種別受注構成



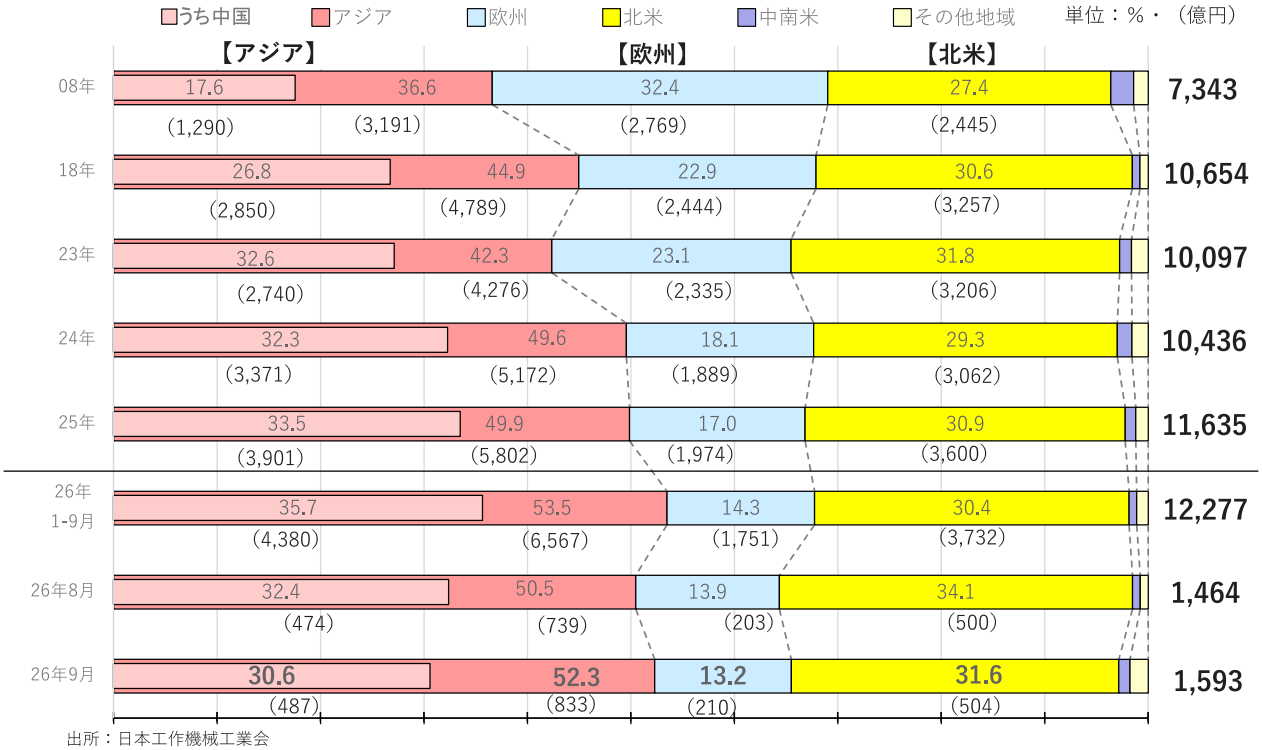
出所：日本工作機械工業会



出所：日本工作機械工業会

外需 地域別構成の推移

2カ月連続で北米比率が3割を超えた



出所：日本工作機械工業会

IMTEX2027インド6日間視察団のご案内

2027年1月22日（金）～1月27日（水）

International Machine Tool & Manufacturing Technology Exhibition

IMTEX 2027　概要

1．会　　期　　2027年1月21日（木）～ 27日（金）
2．会　　場　　インド・バンガロール国際展示場（BIEC）
3．主 催 者　　インド工作機械工業会（IMTMA）
4．展示面積　　約90,000平方メートル　（2025年）
5．出展者数　　1,183社（2025年）
6．入場者数　　133,000人（2025年）
7．展 示 物　　各種切削型工作機械、CNC加工機、マシニングセンタ、レーザー加工機、研削盤・放電加工機、切削工具・ツーリング、CAD/CAMソリューション、測定・検査技術、産業用ロボット、自動化・スマートファクトリー、IoT・Industry 4.0関連技術
8．そ の 他　　会期中、国際セミナー等も開催されます。同時開催として、Tooltech（工作機械向けの最先端の部品、アクセサリー、システムを取り揃えています。）およびDigital Manufacturing（インダストリー4.0や積層造形といった革新的な技術に焦点を当てる。）もございます。

日次	月日(曜)	都 市 名	時 間	交通機関	日　　程	食事
1	1月22日（金）	成田空港発	15:30 18:25	JL-753	**成田空港集合** **日本航空**にて空路、バンガロールへ **<機内泊>**	機内
2	1月23日（土）	バンガロール空港着 バンガロール	0:55 2:30 午前 午後 夜	専用車 専用車	着後、入国手続き後、ホテルへ ホテル着 自由行動 **IMTEX 2027視察（14:00～17:00）** ホテルまたは徒歩圏内レストランにて **<バンガロール泊>**	朝:○ 昼:× 夕:○
3	1月24日（日）	バンガロール滞在	終日	専用車	**IMTEX 2027 視察** **（10:00～17:00）** **<バンガロール泊>**	朝:○ 昼:× 夕:×
4	1月25日（月）	バンガロール滞在	終日	専用車	**IMTEX 2027 視察** **（10:00～17:00）** **<バンガロール泊>**	朝:○ 昼:× 夕:×
5	1月26日（火）	バンガロール	午前 13:00 20:00 23:30	専用車	**自由行動** チェックアウト後、集合 ホテル発　バンガロール市内視察 産業技術館(入場）、郊外ワイナリー（入場） ショッピングモール（下車） 夕食 市内を出発 **<機内泊>**	朝:○ 昼:× 夕:○
6	1月27日（水）	バンガロール空港発 成田空港着	2:55 14:00	JL-754	到着、通関手続後、解散	機内

※上記日程表は10月01日を基準に作成しておりますが、利用交通機関等の都合により変更となる場合がございます。予めご了承ください。
【利用航空会社】JL:日本航空
※時間帯の目安
早朝04:00~06:00 朝06:00~09:00 午前09:00~12:00 午後12:00~16:00
夕刻16:00~18:00 夜18:00~22:00 深夜22:00~27:00 終日09:00~17:00
※宿泊地：バンガロール：イビス バンガロール シティ センター
※部屋タイプ　2名1室：ツイン、1名1室：シングルまたはダブル（ご指定はいただけません）
※部屋のバスはシャワーのみです。お客様によってはバスタブ付きの部屋になる場合があります。

- 募集人員　：14名（最少催行人員：10名）
- 旅行代金　：375,000円　　ツイン2名1部屋利用お一人様料金　（国内空港使用料、諸税、燃油サーチャージは含まれておりません。）
  一人部屋追加代金　60,,000円
  各国空港諸税および燃油サーチャージは含まれておりません。別途収受いたします。
  成田空港施設使用料(3,160円)、 国際観光旅客税（3,000円）海外空港諸税(5,000円)、燃油サーチャージ(63,000円　10/1現在)
  ＊燃油サーチャージは目安となります。増額された場合は差額分を追加収受し、減額された場合はその分を返金致します。
- 申込締切日：2026年11月18日(水)　＊締切日前でも定員に達し次第、締め切ります。
- 添 乗 員：添乗員が同行します。

後援：一般社団法人日本工作機械工業会

旅行企画・実施：東武トップツアーズ株式会社
観光庁長官登録旅行業第３８号（一社)日本旅行業協会正会員
ボンド保証会員

★お問い合わせは
当広告からのお申込みは承っておりません。正式な募集パンフレット、参加申込書をご用意しております。
お気軽にお問合せください。
東武トップツアーズ株式会社　法人営業東事業部　第2営業部
〒103-0025　東京都中央区日本橋茅場町2-10-5 住友生命茅場町ビル2階
TEL：050-9000-4237　FAX：03-6667-0568
masahito_takeuchi@tobutoptours.co.jp
営業時間　平日9:30～17:30（土日祝：休み）担当：竹内雅仁
総合旅行業務取扱管理者/藤本　一樹

JIMTOF2026 特別企画 ｜ 2026.10.27 TUE　東京ビッグサイト

IMTEX 2027 プレスカンファレンス & インド進出セミナー

IMTMA Press Conference & India Business Seminar at JIMTOF 2026

■ 開催概要

日　時	**2026 年 10 月 27 日（火）14:30〜17:00**
会　場	**東京ビッグサイト 会議棟 6 階 603 会議室** 〒135-0063 東京都江東区有明 3-11-1
定　員	36 名（シアター形式）
言　語	英語・日本語（通訳付き予定）
参加費	**無料**
主　催	インド工作機械工業会（IMTMA） Indian Machine Tool Manufacturers' Association
協　力	一般社団法人 日本工作機械工業会（JMTBA）
運　営	NPO 法人 日印ビジネスビューロー（JIBB）／ 日印コンサルティング株式会社（JIC）



■ プログラム

14:30〜15:30（60 分）

第 1 部　IMTEX 2027 プレスカンファレンス

IMTMA 来日！

- IMTEX 2027 の魅力・参加のご案内
- インド工作機械産業の最新動向とビジネス機会

来日予定：Mr. Vikram Salunkhe（IMTMA 副会長）
Mr. Ravi Raghavan（IMTMA 元会長）



15:30〜15:45　休憩・名刺交換

15:45〜17:00（75 分）

第 2 部　インド進出セミナー

インド金型工業会 来日！

- D&M India 2028 展示会のご案内と出展募集
- IMTEX Forming 2028 のご案内と出展募集
- インド金型産業の最新情報
- インド進出に関するお話



■ インド進出コンサルティング内容

売上に直結する「実務」の伴走支援 ― 調査からパートナー探し、合弁・合作、進出手続きまで

1. 市場調査・競合調査
・インド OEM の新機種・調達先情報
・競合の動向、市場価格の調査

2. 合弁・合作パートナー探し
・合弁（JV）・合作パートナーの発掘
・候補企業との協議・交渉サポート

3. インド進出サポート
・商品・サービスの精査、人材発掘
・会社設立　・機械据付

■ お申込み・お問い合わせ

NPO 法人 日印ビジネスビューロー（JIBB）／日印コンサルティング株式会社（JIC）
代表　安井 重麿　TEL：090-9325-3456　／　E-mail：yasui@ji-consulting.jp
担当　橋倉 麻依　TEL：080-6516-4331　／　E-mail：trade@ji-consulting.jp

右の QR コードからお申し込みください。
※プログラム・来日者は都合により変更となる場合があります。

お申込み QR